

第34回日本死の臨床研究会の記録

基調講演

1. 地域で看取る 岡部 健

特別企画

1. 〈対談〉グリーフケア 高木慶子・マーフィー昌子

市民公開講座

1. いのちのバトンタッチ—映画「おくりびと」によせて 青木新門
2. 奇跡のりんご 木村秋則
3. 人生の実力 柏木哲夫
4. 近代史の中の“いのち” 浅田次郎

教育講演

1. 死生学とは—現代日本における「死」の扱いの変化 鈴木岩弓
2. 樹木葬の目指すもの 千坂峻峰
3. ケアすることと、はぐくむこと—死に逝く人の傍らにいて 石垣靖子

シンポジウム

1. 地域で看取る
総合コメント・司会 山崎章郎・石口房子
ホームホスピス「かあさんの家」の提案 市原美穂
在宅ホスピスとそれを支えるチームケア 岩井正勝
小規模施設での看取りを支えるもの 轡 義治
地域の病院の立場から 丹羽 誠
2. 地域でつなぐ
総合コメント・司会 本家好文・梅田 恵
地域での緩和ケアにおける中小病院の役割 佐藤靖郎
地域へつなげ、地域でつなぐ 玉井照枝
希望をつなぐ、がん患者・家族の希望する療養をどうサポートするか 木村理恵子
利用者本位の生活・看取りとは 塩田剛士
地域緩和ケアネットワーク“愛のネットワーク”の構築に向けた取り組み 黒田美智子・他
3. 地域で支える
総合コメント・司会 長谷方人・黒田裕子
望めば住み慣れた我が家で人生を全うできる地域づくり 海野志ん子
ホスピスボランティアの働き 寺永守男
「在宅看取りのできる街」をめざして 秋山正子
「家で最期まで暮らせるまち」を市民・患者の参画で 藤田敦子

対談

1. ドキュメンタリー映画「いのちの作法」
命のしゃべり場 太田宣丞
いのちの作法 笹原留似子

パネルディスカッション

- | | | |
|------------------------------------|-----------|------|
| 1. 真の援助を考える | 総合コメント・司会 | 嘉藤 茂 |
| “死の臨床における患者と家族の真の援助の道”への手がかりとして | | 皆川和子 |
| 真の援助を考える－医師の立場から（スピリチュアルコミュニケーション） | | 林 章敏 |
| 真の援助を考える－看護師の立場から | | 柏谷優子 |
| 真の援助を考える－チャプレンの立場から | | 藤井理恵 |
| 真の援助を考える－死生学の立場から | | 藤井美和 |

ワークショップ

- | | |
|-----------------------------------------------------------|--------|
| 1. 看取りのケアにおけるクリティカルパス－LCP（看取りのパス：リバプール・ケア・パスウェイ）日本語版の使用方法 | 宮下光令・他 |
| 2. スピリチュアルケア～縁生からの気づきへー理論とワークショップ | 大下大圓 |
| 3. リンパ浮腫の治療とケア | 佐藤佳代子 |

ランチョンセミナー

- | | |
|----------------------------|-------|
| 1. がんの地域連携パス | 谷水正人 |
| 2. 地域で支える在宅緩和ケア－一人暮らしでも大丈夫 | 小笠原文雄 |
| 3. ターミナルケア現場で コミュニケーションに迷う | 庄司進一 |
| 4. コミュニティの創造－藤沢町の取り組み | 佐藤元美 |

市民サロン

- | | |
|---------------|------|
| 1. がんサロンと患者団体 | 長澤昌子 |
|---------------|------|

教育研修ワークショップ

- | | |
|--------------------------------------|------|
| 1. 教育研修委員会主催 2010 年度第 2 回教育研修ワークショップ | 庄司進一 |
|--------------------------------------|------|

事例検討

- | | |
|-----------------------------------------------------|-------|
| 1. 複雑な関係の中で強い予期悲嘆を持つ家族への援助を通し
－情報共有を倫理的側面から考える | 長瀧 恵 |
| 2. 訪問看護室を開設し利用者から学んだこと
－抗がん剤治療を続けるためには退院しかない | 伊世利子 |
| 3. ある夫婦の闘病生活を振り返って
－介入を拒み続けた患者と妻への情緒的サポートについて | 広瀬真紀子 |
| 4. 「母より先に死ねない」
－身体が弱っていく現実を受け入れられない患者への関わり | 浅野恵美子 |
| 5. 曖昧な「限定設定」にしがみついた援助者の言い訳
－緩和ケア病棟における血小板輸血 | 蓮尾英明 |
| 6. 筆談用ノートに書かれた言葉を「反復」することで援助となり得るのだろうか
－援助者のとまどい | 春山幸子 |
| 7. 疎遠な家族をもつ精神疾患患者の緩和ケア入院の経験 | 市ノ渡伸也 |
| 8. 執拗な痛みの訴えと苦悩の否認
－「本当に痛いのでしょうか」というスタッフの疑問 | 吉田勝也 |

- 9. 「何もしてほしいくない」という想いに対して、医療スタッフがどのように関わるべきだったか悩んだ一例 岩下智之
- 10. まだ、もう少し待って、後で考える
 - －インフォームド・コンセントのあり方を考える 矢尾知恵子
- 11. 終末期がん患者の緩和ケアにおける音楽の力 仁井山由香・他
- 12. 「髪が抜けるのだけは絶対いや！」と民間療法を選んだ親友の生き方を問う
 - －患者の意志を支えるとは 秋宗美紀
- 13. 病気について知識を豊富にもつ患者の苦悩とケアを行う看護師の思い 武見綾子
- 14. 小児緩和ケアは難しい－両親の意向をどこまで受け入れるべきか 村井美代
- 15. 危機回避ができずに精神症状を起こした患者を看取って 牧 香代子
- 16. 子どもの予期悲観を援助する－否認し続けた夫への介入 福田麗子

原著

- 1. 子どもへのいのちの教育に対する親の態度尺度作成の試み 林 和枝

調査報告

- 1. 地域における緩和ケア病棟の役割
 - －緩和ケア病棟における地域の看護師を対象とした研修の評価 清原恵美・他
- 2. がん患者家族の余命告知時における死別への受け止め方の性的特徴 久松美佐子・他
- 3. 終末期がん患者の看護に携わる看護師の学習ニーズと経験年数およびケア困難感の関連
 - 西脇可織・他
- 4. 死後の処置を行う看護師の思いと死生観教育の検討 平野裕子・他
- 5. 在宅での看取りに関わる訪問看護師の臨終時の現状 石川美智